令和４年度県中体連調査研究部
部活動指導者意識調査まとめ

この調査は、「運動部活動の在り方に関する方針（改定版）」の内容から作成し、その方針の周知と推進を目的としています。令和２年度にも同様なアンケート調査を行い、比較できる項目もございます。

部活動に関する改革が加速している今日，生徒をはじめ，生徒たちを支えている保護者，指導者の方々がその変化に適応し，ともに望ましい運動部活動を目指していくための一助資料となれば幸いです。

【成果】

1： ほぼ全ての部活動で「平日の１日以上の休養日」（令和２年度　97.9%）と「土曜日及び日曜日の１日以上の休養日」(令和２年度　90.0%)を設けていることがわかる。

2： 指導者と生徒との信頼関係を前提とした「心理面を考慮した肯定的な指導」、「生徒状況の細かい把握」、「適切なフォロー」の３つの視点について、「できている」「ややできている」と回答した方の割合が２年前に行ったアンケートの割合を超えた。

【見えてきた課題】

1： 適切な部活動運営のための体制整備について
「運動部活動等の在り方に関する方針（改定版）」の「休日の地域部活動移行に向けた体制整備」と「暴力・暴言・ハラスメントの根絶」の項目で「内容を把握していない」等の回答が多かった。

2： 部活動における暴力・暴言・ハラスメントの根絶に向けた取組について
「部活動における暴力・暴言・ハラスメントの校内相談体制（窓口）を設置し、指導者・部員・保護者への周知」の項目で「周知していない・設置していない・分からない」の回答がかなり多かった。
※2023 年１月 30 日(月)には、スポーツ界の暴力パワハラ問題で、日本スポーツ協会が設置した窓口への相談件数が過去最多である記事が沖縄県２紙に掲載されていました。
学校においても、校内相談体制（窓口）の設置が急務となります。
※部活動等の在り方に関する方針（改定版）P20 参照

3： 適切な指導・運営及び管理のための体制の構築について
「毎月の活動計画・報告」の項目で「取り組んでいない」という回答が２年前よりも増加したこと

【課題解決に向けての取り組み】

1： 本研究結果・考察を各学校へ配布、会議での周知、HP での周知により改善を図る。

2： 各地区中体連に協力を仰ぎ、部活動の教育的意義をはじめ、「運動部活動の在り方に関する方針（改定版）」の周知に取り組むことで改善を図る。各地区の分析結果を活用する。